

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100179		
法人名	有限会社タムラ		
事業所名	グループホームはこべ B棟		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地		
自己評価作成日	平成30年8月27日	評価結果市町村受理日	平成30年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成30年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所より13年が過ぎました。地域の皆さんに「はこべさん、はこべさん」と呼んで頂いてスタッフ一同感謝の気持ちでいっぱいです。利用者様とは決して近づき過ぎず、距離を取り過ぎない関係でサービスを提供しつつ、地域の皆様との交流も大切にして、何か地域に貢献し「集いの場」になれればと心より思う次第です。また、一年ごとに看取り介護も充実して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の五つの理念について、それぞれの職員がどのように意識しているかを全体会の中で話し合った。普段のケアが理念に沿ったものになっているかを、日常の中で折に触れ確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所13年となり、地域の中の事業所として繋がりが深まっている。避難訓練や事業所のお祭り、認知症サポーター養成講座を開催した際には、地域へ一軒一軒お知らせを配って歩き、また温かい言葉をかけて頂いた。近隣の方に採れたての野菜などを頂くことも多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者ご家族や、面会の方、事業所見学や相談に来所された方に認知症の症状への対応の方法などをお話することがある。また、必要な方には相談窓口として地域包括支援センターがあることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	事業所の実情を職員から意見として発することで、事業所で苦勞していることや課題となっていることも伝えることが出来た。メンバーからの意見をもらうことで、ケアの振り返りが出来、またサービス向上へのモチベーションアップにも繋がることも多かった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員の方とは、普段から何かあれば連絡を取り合っている。制度改定時の疑問も、丁寧に説明して頂いた。市の介護相談員派遣事業の受入れも行っており、事業所を知って頂ける機会となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4月より身体拘束廃止委員会を立ち上げた。委員を中心に、より身体拘束廃止についての意識が高まっている。身体拘束をしないケアの工夫についてなど、普段から職員同士で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について全体会で話し合ったり、ニュースなどの事例について、随時朝のミーティングで話し合ったりしている。認知症介護、老々介護、職員のストレス等、虐待の要因となる事柄にも注意して目を向けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方はいないが、隣接事業所で該当者がおり、その際に全体会で制度についての勉強会を行った。今後必要性があれば、関係者へ繋げるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には書面をもとに十分な説明を行うよう努めている。本人、ご家族に疑問点がないか確認しまた、疑問が発生したらいつでも連絡をもらえるよう伝えている。料金改定時には、その都度承諾書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会や電話などの際には、細かい事でもご家族の意見や要望を伺うよう努めている。また利用者様の意見や要望は担当の介護職員を中心に随時伺っている。介護計画見直しカンファレンスにはご家族の参加を促し意見を発して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員が意見を発しやすい職場環境である。職員は社長や所長とも気軽に話せる関係性となっている。月に一回の全体会には社長、所長も出席し意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長が常に全職員の個々の家庭状況や、健康状態、勤務状況を把握しており、働きやすい環境、勤務形態となるよう、必要時は随時条件の整備などについて検討している。職員同士でも可能な限り協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会を実施しているが、人員不足の為、外部研修への参加の機会は少なかった。看取り介護を実践している為、事業所看護師が遺体感染管理士認定資格を取得、また医療的ケア教員講習会を修了している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護相談員派遣事業の中の三者会議があり、相談員、市担当者、市内グループホーム代表での意見交換の場があった。それぞれの事業所の課題や取り組みなどについて話し合いを行った。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に可能な限り情報収集し本人が困っていること等の把握にも努め、信頼関係を構築できるよう安心できる声掛け対応に努めている。環境の変化に対する大きな不安を抱えて入所する方が多いことを再認識し、本人の身になって寄り添っていききたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のこれまでの生活や困りごと、不安などを十分に伺えるよう努めている。そのうえで、事業所に対応出来ること出来ないことを伝え一緒に不安を軽減していけるよう、ご家族が相談しやすい関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や入居前の本人の実態調査の際に可能な範囲で情報収集を行い、本人やご家族の状況を把握し、現時点で何が必要なのかを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在、行えること、難しくなっていること、得手不得手が一人ひとり違うことを認識し、洗濯物たたみ、雑巾縫い、野菜の皮むきなどを行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に外出に行かれる方もいる。母の日、誕生日など贈り物が届き、電話でお話されている。本人が家族を思う気持ちを職員が代弁することもある。面会時に職員の促し見守りにより、食事や水分摂取の介助を行って頂くこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体状況が重くなり外出が難しくなった方も多いが、馴染みの美容師さんにカットに来てもらったり、友人や親せきの方が面会に来られたりしている。買物や定期受診に出かけられた際に、知人から声を掛けられ昔話に花が咲くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や性格を職員が認識し、利用者様同士の関わりを支援している。利用者様同士声を掛け合いながら支え合っている姿も見られる。会話の内容によって必要時は、職員が間に入り話題転換を行ったり場面転換を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、外出先で声をかけて頂いたりホームに立ち寄ってくださったり、また野菜を頂いたりしている。相談を受けていた契約者様の別のご家族が入所される予定である		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当職員を中心に、日常の何気ない会話から「今」思っていることを感じ取り、ユニット全職員での意向の把握に努めている。認知症の進行により意向の把握が困難な場合にも、表情や仕草、ご家族の意見などから思いを汲み取れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者様、ご家族へは積極的に関わり、生活歴を伺っている。長期利用の方も、ご家族との会話から新たに情報を得ることが多くある。生活歴をふまえ本人、ご家族の思いの理解に努め、職員の決めつけとならない様注意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で過ごされるのを好まれる方や、体力低下、精神不安定状態の見られる方など、状態に合わせた過ごし方ができるよう配慮しつつ、寝っぱなしや昼夜逆転の予防にも注意している。軽作業や屋外散歩の促しも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画について毎月、居室担当者がモニタリングを行いユニットカンファレンスにて話し合っている。三か月に一度はご家族にも参加をお願いし見直しのカンファレンスを開催している。心身の状態の変化があれば、随時介護計画を見直し、現状に合ったものを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録の他、個人ノート、申し送りノート、各チェック表などで利用者様それぞれの状態を把握している。情報の見落としがあれば、職員同士で声を掛け合い、記録を再確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な来所をお願いした際や、急変時など必要に合わせご家族の送迎を行っている。車椅子外出などご家族では困難な場合の対応も行っている。ご夫婦で利用されていた方が亡くなり、葬儀出席の支援やグリーフケアにも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣幼稚園の運動会応援や、園児の訪問があり交流が図れた。縫いためた雑巾をプレゼントした利用者様もとても喜ばれていた。町内のお店の方や美容院の方も認知症の理解があり、利用者様が行きやすい環境となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居申し込みや契約の際にかかりつけ医について本人、ご家族の意向を伺いながら話し合っている。協力医療機関との連携が図れており、外来受診や訪問診療にて、また必要時は随時往診を依頼し、適切な医療を受けることが出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での少しの変化など、事業所看護師に相談、報告を行い対応できている。必要時には協力医療機関へと繋いでもらい指示を受けている。24時間オンコール体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合には本人の情報提供を行い、本人ご家族が安心して治療を受けられるように支援している。また、ご家族や病院関係者と連絡を取り合いスムーズに退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化、終末期となった場合の対応についても考えて頂く様促している。事業所での看取り介護について、指針のもとに出来ること出来ないことの説明を行っている。また、入居後も定期的に意向の確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者それぞれに起こり得る急変を想定した話し合いを、ユニット内で常々行っている。特に経験の浅い職員も対応できるように、マニュアルや物品、薬品の確認などを実際に行っている。AEDを使った救急救命法を学ぶ機会もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員や地域の方々も参加して避難訓練、通報訓練、水消火器を使った消火訓練を行った。避難訓練時に実際に利用者様も避難したり、寝たきりの方は職員が利用者様の代わりになって避難を行ったりした。前回の目標達成計画での取り組み内容の災害対策マニュアルの見直しも実施できた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を認識し、その方にはどのような対応が嬉しいのか、嫌悪感を与えてしまうのかを考えながら声掛けを行うようにしている。職員同士の会話が利用者様の気がかりになったり排泄の声掛けなど、慣れによる配慮の欠如が見られるため意識していきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員を中心とし、信頼関係を築いていき思いを口に出せる環境作りに努めている。利用者様によって遠慮してしまったり話せないでいる方もいる為配慮している。自己決定したことに自信を持って頂ける様な声掛けも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	主に午前中には軽体操やレクリエーションの時間として声掛けを行うが、体調不良や参加したくない時などは本人のペースに任せている。居室でテレビを観たり読書をしたりされている。屋外散歩も本人の希望を伺いながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた支援を行っている。洋服の丈を自分で直して着られる方もいる。化粧水や乳液を自分でつけられたり、洋服を自分で選んだりされている。身だしなみの関心が薄い方には声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の皮むきなど出来る方には行って頂いている。山菜のゴミとりやフキの皮むきなど皆で楽しく行うこともあった。ベッド上で食事介助が必要な利用者様があり、皆一緒に食卓を囲むことが難しくなっているが、声掛けなどを行いながら食卓の雰囲気作りにも配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分の摂取量観察を行っている。摂取量が少ない方には、声掛けをしたり時間をずらし促してみたり、また本人が好むものを提供したり工夫している。食べられない事が負い目とならない様にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け見守りを行い、必要な方には状態に合わせて一部介助又は全介助を行っている。義歯洗浄に拒否があった方も少しずつ声掛けを行ったことで、毎日洗浄されるようになった。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況の変化でトイレでの排泄が難しくなっている方が多い。夜間のみオムツを使用し日中はトイレへ行かれる方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて全員の方の排便確認を行っている。それぞれの排便ペースを把握し便秘予防と対応に努めている。水分を多めに促したり乳製品の提供、マッサージなども試している。下剤使用の方も随時調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回入浴していただけるように努めている。本人の希望を伺いながら1対1でゆっくりと関わり、心地よく入浴の時間を過ごせるよう支援している。身体状況が重くなった方も看護師の指導の下、職員二人介助にて安全に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせ、食後に横になる方、昼寝はしない方それぞれに休まれている。夜間は安心して眠れるように、特に精神状態の不安定な方への関わり方には配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個人ファイルの服薬カードにて、個々の服薬状況がすぐに確認できるようになっている。変更があった場合には個人ノートや業務日誌に記入し全職員が把握できるようにしている。看護師を中心に薬の服薬方法、効果、副作用の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むき、洗濯物たたみ、雑巾縫いなど得意な力を活かしてもらっている。散歩や外気浴など気分転換も行っている。行事も楽しめるよう工夫し、手打ちそば実演見学と食事会、クリスマス会のフラダンス、カラオケなどは皆さんにとっても楽しんで頂けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族面会時に一緒に外食される方もいる。本人の希望にて町内をドライブしたり、買い物の際に一緒に外出されたりしている。行事外出は花見、お祭り見学、紅葉狩り、幼稚園運動会応援、自衛消防操法大会の応援等があった。ご家族と相談しお孫さんの結婚式に出席された方、お盆に自宅外泊された方がいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、少額のお金を持たれている方がいる。自分の欲しい物(縫い糸や紐、マジック等)を職員に頼んで買ってきてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は電話や手紙の要望があったが、現在はあまり聞かれなくなった。家族から贈り物等が届いた際には職員介助にて電話されたり、職員の促しにて手紙を書かれたりしている。ご家族了承のもと、携帯電話を持たれ自ら使用される方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけを行ったり、利用者様が仕上げた塗り絵や手芸品、以前に撮った趣味の写真を飾ったりしている。ソファコーナーの大きい窓からの眺めは四季を存分に感じる事が出来、ホームの自慢になっている。ホールは食事前になると調理の音や匂いが感じられ食欲を刺激している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は決まっているが、ソファに座る場所も、安心するのか自然と同じ場所となっている。ホールへ出られたり、畳コーナーに腰掛けたり、ソファで談話したり本を見たり、また玄関先に行き外気浴したりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	気に入った塗り絵を飾ったり、お孫さんからの手紙や写真を飾ったり、本棚を置いたり、安心して暮らせるような居室にしている。裁縫セットを手元に置いたり、好きなテレビを居室で楽しんだり、その方に合った居室になるようご家族と話している。居室に霊壺を置かれている方もおり、お水や菓子などを供えられている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには、わかりやすい様に名札を掲げ自分の部屋、他者の部屋が分かるようにしている。日めくりカレンダーや大きい掛け時計があり、日時も確認しやすくなっている。トイレやお風呂場にも札を掲げ目印となるようにしている。		